

令和2年3月24日 会頭記者会見 発言要旨

■新型コロナウイルス感染症の拡大による経済への影響について

＜立石会頭＞

世界的に拡大が進んでいる新型コロナウイルス感染症の影響により、国民生活や経済活動に深刻な影響を与え続けており、いまだに収束が見通せない状況にある。業種や規模を問わず、あらゆる企業に影響が及んでおり、従業員の入収入減少や雇用の悪化など、経済への悪影響に大きな懸念を持っている

こうした事態を受け、今月9日に京都経済4団体や京都府・京都市等と共同で、国に対して「新型コロナウイルス感染症の京都経済への悪影響を最小限に食い止めるための緊急要望書」を提出したところだ。本所としても、既に1月29日より専門の相談窓口を設け、また今月から土日の相談も受け付けており、引き続き各企業の実情に合わせてしっかりと支援していきたい。

感染拡大を防止するために、政府や自治体からの自粛要請に基づき、人やモノの移動等を抑制せざるを得ないが、一方で過度に社会活動・経済活動を停滞させないような配慮も必要だと考えている。国や京都府、京都市には、自粛解除の見通しやウイルスの収束期における需要喚起策など、先々を見据えた緊急対策を一日も早く示すことで、社会の不安払拭に努めていただきたい。

■会頭交代について（退任あいさつ）

＜立石会頭＞

本日開催した通常議員総会において、新会頭として塚本能交さんを選任した。塚本さんは2007年11月から副会頭を務めており、ワコールホールディングスの会長として、京都はもとより幅広い国際経験を持たれ、世界的なワコール・ブランドを確立された立派な方だ。京都ブランドの推進をはじめ本所の活動にも大きく貢献されており、京都商工会議所の会頭、また日本商工会議所の副会頭として、人格・見識とも相応しい方であると確信している。

当初考えていたような、京都経済センターの完成を見届けたタイミングでの交代から少し時間をいただけたことで、京都経済センターの機能を活用した様々な事業に触れることができ、「連携と協働」の拠点としての効果を実感することができた。若い起業家を育成するための「京商知恵基金」をはじめ、京都経済センターを拠点に知恵産業を未来へつなぐ道筋をつけられたことは、万感の思いである。今後は「京都知恵産業創造の森」の理事長という立場で、京都商工会議所をはじめ、京都経済センターに入居する様々な団体と連携しながら、KOINを拠点に起業家の育成やオープンイノベーションの推進等に取り組んでいきたい。

振り返ると、2007年5月に会頭に就任して以来、非常に多くの皆様からのご協力・ご支援のお陰をもって様々な事業を推進することができた。「ニュー京商ビジョン」から現在の「ビジョンFUTURE」まで、「知恵産業のまち・京都の推進」を基本方針に掲げ、会員企業の大半を占める中小企業の育成に力を注いできた。京都の地域特性や企業独自の強みを活かした知恵ビジネスを創出

する取り組みは、行政や他の産業支援機関にも広がり、京都経済の将来を担う知恵産業群と云うべき、企業集積を実現しつつある。

2012年には、本所創立130周年を記念し「知恵産業ウィーク」として「京都産業まつり」や「みやこの知恵めぐり」などの事業を実施した。さらに2018年には、パリ・イル・ド・フランス商工会議所との友好協定締結30周年記念事業「京都知恵ビジネスメッセ in PARIS」を実施するなど、国内外に広く知恵ビジネス企業の商品やビジネスモデルを発信してきた。昨年は、「京都・くらしの文化×知恵産業展」を開催したが、文化を支えてきた伝統産業の知恵や先端産業の魅力も体感いただき、大変意義深い事業であったと考えている。また、商工会議所をあげた会員増強運動の結果、2013年には12年ぶりに12,000会員を突破するなど、組織基盤を強化することができた。この間、会員の皆さんの声を本所の事業に活かしていくために、部会長、職員などによる会員訪問活動を展開し、私自身も「会頭の会員訪問」として多くの会員の声を直接聞き、交流を深めることができた。

オール京都の取組ということ言えば、京都の未来を考える懇話会で約3年にわたり議論し、2013年に発表した「京都ビジョン2040」をベースに、「世界交流首都・京都」という未来像に向けて、歴史的な文化庁の京都移転決定をはじめ、北陸新幹線の京都ルート決定など、様々な成果を実現することができた。京都経済センターも、そうした長年にわたるオール京都の取組の成果ではないかと考えている。

新型コロナウイルスの感染拡大により経済に大きなダメージが懸念される中、バトンタッチの時期としては大変難しいタイミングとなってしまった。しかしながら、2022年の文化庁移転、2025年の大阪・関西万博の開催など、京都を中心に関西、そして世界へと「連携と協働」の輪を拓ける好機を迎えている。塚本新会頭には、本日ご出席の副会頭の皆様とともに、新会頭としての独自のカラーを出しつつ、刻々と変化する時代に合わせて事業を展開していただきたい。

本当に長いようで短い13年間であった。私としては、前任の村田会頭（現・名誉会頭）から引き継いだ会頭職を全身全霊で務めてきたつもりだ。これからも京都知恵産業創造の森の理事長として、お世話になった京都のために役に立ちたいと考えている。心より御礼を申し上げ、退任の挨拶に代えさせていただく。

■会頭交代について（就任あいさつ・所信表明）

<塚本次期会頭>

昨年7月の通常議員総会で正式に立石会頭から次期会頭として指名いただき、準備をしてきたが、改めてその重責に身の引き締まる思いだ。微力ではあるが、会員の皆様の協力を得ながら精一杯務めて参りたいと考えている。立石会頭のもと推進してきた「知恵産業のまち・京都」を引き継ぎ、国内外の人々を魅了する活力溢れる京都の実現に向けて、中小企業振興をはじめとする産業振興やまちづくり、人づくりを基軸に取り組みでいきたい。

正式な会頭就任は4月からとなるが、会頭就任にあたっての所信を申し上げたい。

新型コロナウイルスの感染拡大が世界で猛威を振るっているが、発生地といわれる中国の感染者数はピークアウトしつつあるものの、製造業ではサプライチェーンの分断による生産活動への影響が深刻化しており、また観光産業を中心にインバウンドの減少や各種イベントの自粛等による消費、売上の減少といった影響が広がっている。世界的な景気減速への懸念から、為替や株価の動きも不安定さを増しており、感染拡大の抑制に加えて、経済の面でもまさに正念場を迎えているところだ。リーマンショックに匹敵する、あるいはそれを超えるといわれる今回の新型コロナショックを克服するために、政府の緊急対策に基づき、企業の資金繰りに対する金融支援や雇用維持への支援など、政策を総動員して対応することが求められている。本所としても、地域経済へのマイナス影響を抑えるために、関係機関と連携して取り組むとともに、引き続き特別相談窓口による中小企業への経営支援等にあたっていきたい。

そうした現下の状況も含めて、企業を取り巻く経営環境は著しいスピードで変化しており、昨年11月に発表した「京商ビジョンFUTURE」を指針としながら、時代や企業ニーズの変化を踏まえた各種の施策を推進していく所存である。とりわけ、京都経済の成長をけん引する知恵産業、知恵ビジネスへの支援を中心に、京都のまちや企業、産業が継承・発展させてきた価値、本質をさらに追及し、独創性にあふれ、世界で輝く京都ブランドの確立を目指していきたいと考えている。

こうした方針については、立石会頭にもお伝えし、本日の議員総会で承認された次年度の事業計画にも盛り込んでいる。事業計画では、「知恵産業で花開く 個性豊かな世界水準の京都ブランド『VIVID KYOTO』を目指して」をテーマに掲げ、いきいきと輝き、世界の人々が憧れ、国内外から愛されるブランド作りに取り組んでいきたい。立石会頭からは、BtoCをメインに自社のブランドを確立してきた経営手腕に期待をいただいております。顧客やマーケットの視点から新たな価値を創造する知恵ビジネスの取組に磨きをかけ、知恵産業のまちをさらなる成長ステージへと引き上げていきたいと考えている。新たな海外販路開拓支援や京都ブランド発信事業など、世界のマーケットを見据えて京都ブランドの創造と発信に取り組んでいく所存だ。

また、商工会議所の組織運営や事業の効果を最大化させるためには、組織の根幹となる最も大切な顧客であり、パートナーである会員事業所の声を反映させていくことが、何より重要だ。私もできるだけ多くの会員の方から、本所事業に対する忌憚のないご意見をお伺いしていきたいと考えている。

本日の議員総会では、会員ニーズに合った取り組みを強力に推し進めるために、昨年11月に選任された堀場副会頭、山口副会頭、村田副会頭、土井副会頭に加え、立石会頭と相談させていただきながら、新たに3名の副会頭を選ばせていただいた。

株式会社トーセ 代表取締役会長兼CEOの齋藤茂さんは、平成16年から議員、19年から常議員として本所の事業に携わっていただき、サービス産業部会では部会長を務めていただいている。また、京都ブランド推進特別委員会の委員長として、京都ブランドの育成と発信に努めていただいたほか、京都CMEX実行委員会の委員長としても、マンガやアニメ、映画などのコンテンツ産業の振興にもご尽力いただいている。社業では上場経験もお持ちであり、そういった手腕を活かして、副会頭として京都経済センターを核とした人材育成や起業支援の分野でも、お力を発揮して

いただけることを期待している。

株式会社キャリアール・インターナショナル 代表取締役社長の田中誠二さんは、平成 22 年より議員、28 年より常議員として本所事業に携わっていただいている。観光・運輸部会では部会長をお務めいただいております、京都にとって欠かすことのできない観光産業の振興のために、大いに貢献していただいている。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、インバウンドだけでなく観光産業全体が大きく減速する中、これまでのご経験を活かして、再び京都の観光を盛り上げていただけることを期待している。

オムロン株式会社 取締役会長の立石文雄さんは、オムロンの会長としてご活躍で、立石義雄会頭のあとを受け、創業家出身として大企業の経営を率いたご経験を活かして副会頭としてご活躍いただきたいと考えている。

4 月 1 日より、新しい布陣でビジョンに基づく各種事業を展開していくこととなる。引き続き本所事業運営への一層のご協力を心よりお願い申し上げ、会頭就任にあたっての所信とさせていただきます。

■就任あいさつ

<齋藤次期副会頭>

京都ブランド推進や国際交流、サービス産業部会、KYOTO CMEX など様々な事業に携わってきている。新型コロナウイルスの拡大により、あらゆる事業が大きく崩れてきている。しかし、いずれは回復局面が訪れると確信しており、その時に京都経済がV字回復できるようなプランニングに取り組み、京都の役に立てるように活動したいと考えている。

<田中次期副会頭>

立石会頭が推進してきた「知恵産業のまち・京都」を踏まえながら、塚本新会頭が提唱する「世界水準の京都ブランドの実現・普及」を実現すべく、会頭の補佐役として、微力ではあるが与えられた使命を全うできるよう全力で取り組んでいきたい。新型コロナウイルス感染症の拡大により、観光産業は大きな打撃を受けている。観光産業は裾野が広い産業であり、京都経済全体への影響も甚大なものとなる。まずは喫緊の課題として、観光事業者の経営安定や、社会課題となっている地域住民の暮らしと観光振興の共存についてもしっかりと対応することで、京都の都市格向上に貢献していきたい。

<立石次期副会頭>

個人としては京商に初めて関わることとなるが、財界活動としては、経団連のサプライチェーン委員会の委員長や、経済同友会のジュニアリーダーシッププログラムの委員長などを務めている。こうした財界活動で得た知見を、京商が行う様々な事業や企業支援において活かしていきたいと考えている。

記者からの質問事項

■「世界水準の京都ブランド」というメッセージがあったが、京都ブランド強化のポイントや京都ブランドの可能性についてどう考えているのか。

<塚本次期会頭>

新型コロナウイルスの影響で大きく減少しているものの、京都の街を歩いてみると非常に多くの方が京都にお越しにいたり、京都ブランドの力強さを感じる人が多い。一方で京都はまだまだ知られていない魅力を秘めており、これを京都ブランドとして価値を高めて発信していくことで、京都のファンをもっと増やしていくことができるのではないかと考えている。京都人が伝えたい本当の京都の魅力を掘り起こし、より広く深く伝えていくことで、京都ブランドのさらなる価値向上を目指していきたい。

■新型コロナウイルス感染症の拡大が続いており、経済の大きな減速が懸念されているが、こうした事態に新体制でどのように取り組んでいくか。

<塚本次期会頭>

本所としては、まずは特別相談窓口による個別の中小企業支援に注力することとしている。国や自治体に対しては、具体的な政策に基づきしっかりと予算をつけていただいたうえで、適切に執行できる体制を整えていただくことを求めている。

また、専門家の中でも意見が分かれているところであるが、まずは家庭でも会社でもウイルス感染のリスクが高い場所を避け、体調管理などの感染予防対策や、万が一感染した場合の感染拡大防止策を徹底していくことが重要だ。

■立石会頭は在任中にリーマンショックを経験されているが、その経験を踏まえて、今回の新型コロナウイルスによる経済減速へどのように対応すべきと考えているか。

<立石会頭>

リーマンショックは金融危機が要因であったが、今回は疫病の流行による人の行動制限など日常生活にも非常に大きな影響を与える事態となっているところが大きな違いだ。政府や自治体の支援策を十分に活用しながら、資金繰り等の個別企業の相談に柔軟に対応するとともに、感染が落ち着いてからの回復を見据えて準備していくことも重要だと考えている。

■大阪・関西万博について、大阪商工会議所から具体的な寄付の依頼が来ていると思うが、どのように対応していく考えか。

<立石会頭>

先日依頼を受けたばかりであり、具体的な対応については今後検討していく。

以 上

会 頭 記 者 会 見

日 時：令和2年3月24日（火）17：10～17：40

会 場：ハイアットリージェンシー京都「ドローイングルーム」

資 料：1. 会頭・副会頭・専務理事 一覧
2. 新会頭・副会頭 略歴
3. 京都商工会議所 2020年度事業計画

以 上

京都商工会議所 会頭・副会頭・専務理事

<会 頭>

(新) 塚本 能交 株式会社ワコールホールディングス 代表取締役会長

<副 会 頭>

堀場 厚 株式会社堀場製作所 代表取締役会長
兼グループCEO

山口 悟郎 京 セ ラ 株 式 会 社 代表取締役会長

村田 恒夫 株式会社村田製作所 代表取締役会長兼社長

土井 伸宏 株式会社京都銀行 代表取締役頭取

(新) 齋藤 茂 株式会社ト一セ 代表取締役会長兼CEO

(新) 田中 誠二 株式会社キャリエール・インターナショナル 代表取締役社長

(新) 立石 文雄 オムロン株式会社 取締役会長

<専務理事>

兒島 宏尚 京都商工会議所 専務理事

※立石会頭は令和2年4月1日付で名誉会頭に就任

※新任の正副会頭は令和2年4月1日付の就任



2020年度

京都商工会議所事業計画

京都商工会議所

目 次

■2020年度京都商工会議所事業計画

・基本フレーム	
・基本方針	1
・実施事業項目	
A. 未来を担う多様な人材が花開くまち	
A1. イノベーションを牽引する人材の創出	2
A2. 多様な人材確保・育成支援	2
B. 知恵を展開し、活力ある未来を拓くまち	
B1. 未来志向の経営をサポート	3
B2. 企業の成長に向けた橋渡し	4
C. 創造性にあふれ、世界に開かれたまち	
C1. 京都のまちや産業のブランド力向上	4
C2. 未来の活力創造に向けた提言・協働	5
D. 会員企業と共に可能性をひらく京商	
D1. 会員サービスの充実	6
D2. 会員参画・組織基盤の強化	6
・〔付表〕2020年度事業計画と部会・委員会との関連表	8

京都商工会議所 行動理念

1. 京都商工会議所は、1200年の歴史・伝統・文化に培われた京都を愛し、世界に開かれた活力ある京都産業の発展を目指します。
2. 京都商工会議所は、進取の気風と文化を育んできた先人の精神を継承し、京都の都市格の向上を目指します。
3. 京都商工会議所は、会員のニーズに的確に対応し、信頼され、行動・挑戦し続ける地域総合経済団体を目指します。

重点分野

- ① 世界へ向けた京都ブランドの創造と発信
- ② 京商知恵基金を活用した若手起業家やスタートアップへの支援
- ③ 中小企業の「新たな成長」へ向けた支援の強化

A. 未来を担う多様な人材が花開くまち

A1. イノベーションを牽引する人材の創出

・京商知恵基金を活用した京都・知恵アントレプレナー支援プログラム(K-CAP)事業の展開【新規】

- ①次世代を担う若手起業家を発掘・表彰する「京都起業家アワード」の開催
- ②ベンチャーやスタートアップ等の成長企業とビジネスパートナーとの出会いやマッチングに向けた「京商スタートアップ・ショーケース(イブニングピッチ)」の開催
- ③学生・若手起業家が先輩経営者をメンターにビジネスを磨く場となる「Lunch&Learn Meeting」事業の実施
- ④起業家のさらなる成長につながるアクセラレーションプログラムなどの検討
- ⑤アントレプレナーシップへの関心を高める講演会の開催や各種情報の発信

・スタートアップ・エコシステム拠点都市の形成に向けた取組【新規】
・京阪神の連携によるライフサイエンス関連産業の振興

A2. 多様な人材確保・育成支援

- ・「人事最前線ネットワーク」の創設による会員企業の採用支援【新規】
- ・新卒採用に向けた中小企業と大学の関係強化、交流事業の推進
- ・新卒採用のための大学生等に向けた中小企業情報発信事業「京の中小企業ワークナビ」の充実
- ・企業と学生の交流会などキャリア支援事業の推進
- ・京商ビジネススクールの充実(公開セミナー特別プログラムの拡充)
- ・簿記検定、新カラーコーディネーター検定をはじめとする検定試験の受験者拡大
- ・ダイバーシティ経営促進のための「ダイバーシティマネジメントセミナー」等の開催【新規】

B. 知恵を展開し、活力ある未来を拓くまち

B1. 未来志向の経営をサポート

- ・未来志向の企業経営を考える「京商フューチャーフォーラム」の開催【新規】
- ・「創業塾」、「創業ワンポイントレッスン」などの創業支援講座の開催
- ・円滑な事業引継ぎを促進するための「M&A専門家養成講座」(仮称)の開催【新規】
- ・第三者承継に活用できる「後継者人材バンク」の拡充
- ・京都経済センター入居団体との連携による「事業承継支援強化月間」の拡充
- ・京都市との連携による「経営発達支援計画」に基づく伴走型支援の推進
- ・京都市との連携による「事業継続力強化支援計画」の策定と同計画に基づく事業所向け事業継続計画(BCP)策定の啓発・支援【新規】
- ・新型コロナウイルス感染拡大等により影響を受けた中小企業等に対する経営支援の充実・強化
- ・小規模事業者・中小企業のIT化と5G時代に対応したDX(デジタルトランスフォーメーション)促進支援
- ・「支援力向上評価会議」等による経営支援力の向上・強化
- ・SDGsに対応した環境経営の促進【新規】

B2. 企業の成長に向けた橋渡し

- ・新たな知恵ビジネスの成長モデルを発信する「知恵-1グランプリ」の実施【新規】
- ・知恵ビジネスの裾野を広げる「知恵産業の森サロン」の開催
- ・オール京都による販路開拓支援「京都知恵産業フェア2021」の開催
- ・新商品開発・首都圏販路開拓支援「あたらしきもの京都」等の推進
- ・「京都いちおしポップアップショップ」(仮称)による販路開拓支援【新規】
- ・海外市場開拓支援のための「逆商談会」の実施
- ・「京都海外ビジネスセンター」との連携による海外展開支援の強化
- ・JETRO京都と連携した「京都ブランド海外展開助成金」の実施
- ・ファッション京都推進協議会・JETRO京都と連携した海外販路開拓支援事業の調査・検討

D2. 会員参画・組織基盤の強化

- ・全会員の参画機会向上を目指す「会員交流強化プロジェクト」の推進
- ・会員訪問の実施(本所事業PRと会員ニーズの掘り起こし)
- ・全所をあげた会員増強運動の実施
- ・女性会・青年部の活動支援
- ・旧京商ビル資産積立金活用検討会議等による資産活用方法の検討
- ・大規模災害等に備えた事業継続計画(BCP)対策の推進

C. 創造性にあふれ、世界に開かれたまち

C1. 京都のまちや産業のブランド力向上

- ・伝統産業の魅力を広く発信する「京都の伝統産業 技の祭典」(仮称)の開催【新規】
- ・職人の技に触れる伝統産業工房訪問ツアーの実施【新規】
- ・京都・観光文化検定試験の初学者セミナーの実施や広報強化による受験者拡大
- ・「KYOTO CMEX2020」開催など、マンガ、アニメ、ゲーム、eスポーツ等のコンテンツ産業の振興
- ・「きもの文化」ユネスコ無形文化遺産登録に向けた関係機関との連携
- ・「きものウィーク」や「きものの日」の普及促進
- ・和装関連団体と連携・連動した「第28回ファッションカンタータfrom KYOTO」の開催
- ・琵琶湖疏水など産業遺産や文化財の活用による新たな観光資源の魅力創造推進
- ・文化、伝統産業、IT等、異分野と掛け合わせ新しい観光を考える「観光振興クロスセミナー」の開催
- ・「花灯路」「京のセタ」「祇園白川さくらライトアップ」など夜観光・宿泊観光充実事業の支援・実施
- ・「京都創造者大賞2020」の実施
- ・京都ブランド推進連絡協議会と連携した新たな京都ブランド発信事業の検討
- ・「京都文化カプロジェクト」の共同実施

C2. 未来の活力創造に向けた提言・協働

- ・議員を中心に京都の経営者が政策的な議論を行う第1回「京都経済人会議」(仮称)の開催【新規】
- ・国・京都府・市への要望など、意見・提言活動の強化
- ・文化庁の京都移転に向けた、オール経済団体の支援の検討【新規】
- ・「ワールドマスターズゲームズ2021関西」の機運醸成と協力
- ・2025年大阪・関西万博開催に向けた協力
- ・高速道路や隣接都市を結ぶ幹線道路などの道路ネットワークの整備促進
- ・北陸新幹線・リニア中央新幹線の整備促進
- ・府商工会議所連合会の機能強化による府内商工会議所との連携強化
- ・(一社)京都知恵産業創造の森との連携強化
- ・府内経済団体、関西・北陸等の関係諸機関との連携強化

D. 会員企業と共に可能性をひらく京商

D1. 会員サービスの充実

- ・「定例会員講演会」やオンラインセミナーなどの開催
- ・Webサイトの充実やSNSの強化などによる本所事業の発信強化
- ・原産地証明申請・発給業務の電子化導入【新規】
- ・「京商はんなり共済」など共済制度の普及促進

実施事業項目

A. 未来を担う多様な人材が花開くまち

A1. イノベーションを牽引する人材の創出

- ・京商知恵基金を活用した京都・知恵アントレプレナー支援プログラム(K-CAP)事業の展開 **新規**
 - ① 次世代を担う若手起業家を発掘・表彰する「京都起業家アワード」の開催
 - ② ベンチャーやスタートアップ等の成長企業とビジネスパートナーとの出会いやマッチングに向けた「京商スタートアップ・ショーケース(イブニングピッチ)」の開催
 - ③ 学生・若手起業家が先輩経営者をメンターにビジネスを磨く場となる「京商 K-CAP Lunch&Learn Meeting」事業の実施
 - ④ 起業家のさらなる成長につながるアクセラレーションプログラムなどの検討
 - ⑤ アントレプレナーシップへの関心を高める講演会の開催や各種情報の発信
 - ⑥ 次世代起業家を発掘するための大学等での出張相談会の実施
 - ⑦ 大学等との連携による学生起業家発掘・育成プログラムの実施
- ・K-CAP 事業と連携した起業家支援事業として、「京商フューチャーセッション」や「知恵産業オープンイノベーションピッチ」の開催
- ・スタートアップ・エコシステム拠点都市の形成に向けた取組 **新規**
- ・(一社)京都知恵産業創造の森の運営を通じた産学公連携事業の推進
- ・京阪神商工会議所によるライフサイエンス関連産業の振興や関西健康・医療創生会議との連携

A2. 多様な人材確保・育成支援

- ・定期公開セミナーの内容充実など京商ビジネススクールの運営強化
- ・オーダーメイド研修の充実・強化
- ・京の企業合同入社式の開催
- ・新入社員研修の強化
- ・入社2～5年目、働き方改革、女性活躍などに主眼を置いた研修の実施
- ・簿記検定、新カラーコーディネーター検定をはじめとする商工会議所検定試験の受験者拡大
- ・「人事最前線ネットワーク」の創設による会員企業の採用支援 **新規**
- ・「企業採用担当者と大学就職担当者の情報交換会」等の交流事業による中小企業と大学との関係強化
- ・新卒採用のための中小企業情報発信支援事業「京の中小企業ワークナビ」の充実
- ・未来の産業人材である学生と会員企業との交流を育む「企業と学生のPR交流会」等の開催
- ・人材確保のための「合同企業説明会」及び「知恵キラリ 京の中小企業業界研究会」の開催
- ・障がい者・高齢者・外国人等の採用に関する情報提供や法律改正等の周知
- ・会員企業への情報提供等による働き方改革の推進
- ・ダイバーシティ経営促進のための「ダイバーシティマネジメントセミナー」等の開催 **新規**

- ・京都ウィメンズベースを核とした輝く女性応援京都会議や男性リーダーの会との連携強化
- ・小学生への環境学習事業の実施

B. 知恵を展開し、活力ある未来を拓くまち

B1. 未来志向の経営をサポート

- ・未来志向の企業経営を考える会員参加型の「京商フューチャーフォーラム2020」の開催 新規
- ・創業を志す人を対象とする「創業塾」「創業ワンポイントレッスン」の開催など創業啓発・支援事業の実施
- ・新事業創出を目指す中小企業を対象とした「知恵の誘発セミナー」(仮称)の開催 新規
- ・知恵の経営推進セミナーの開催を通じた知的資産経営の取り組み支援
- ・事業承継案件の発掘・成約拡大のための「京都府事業引継ぎ支援センター」の体制強化
- ・親族承継・事業承継税制対応のための専門相談窓口の設置
- ・第三者承継に活用できる「後継者人材バンク」の拡充
- ・金融機関との連携による事業承継案件発掘・成約のための「金融案件モール」の創設 新規
- ・事業承継の啓発や案件発掘のための「事業承継セミナー」「個別相談会」の開催
- ・円滑な事業引継ぎを促進するための「M&A 専門家養成講座」(仮称)の開催 新規
- ・「事業承継支援強化月間」の拡充による京都経済センター入居機関との連携強化
- ・京都市との連携による「経営発達支援計画」に基づく伴走型支援の推進
- ・京都市との連携による「事業継続力強化支援計画」の策定と同計画に基づく事業所向け事業継続計画(BCP)策定の啓発、支援 新規
- ・新型コロナウイルス感染拡大等により影響を受けた中小企業等に対する経営支援の充実・強化
- ・中小企業等経営強化法に基づく「経営革新等支援機関」としての支援活動の実施
- ・中小企業事業者の消費税軽減税率制度への対応状況等の把握と各種施策の導入支援強化
- ・税制、民法等の改正など、経済活動に密接に関連する各種制度改正への対応支援
- ・「小規模事業者持続化補助金」、「ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金」等の小規模・中小企業向け支援施策の活用促進
- ・経営革新計画、京都府元気印中小企業認定制度、京都府「知恵の経営報告書」等の各種認定・認証制度取得への支援
- ・小規模事業者経営改善資金(マル経)融資の推薦、小規模事業者経営発達支援資金や各種制度融資等の活用による金融支援
- ・京都府中小企業再生支援協議会の運営
- ・経営安定特別相談室の運営
- ・「がんばる経営応援専門家ネットワーク」など専門家との連携強化
- ・ビジネスサポートデスクを拠点とする経営支援員による窓口・巡回支援活動
- ・地域活性化推進委員との連携やビジネス交流会の開催による地域活性化の推進
- ・「中小企業応援センター」を通じた各支援機関との連携
- ・地域商業者や商店街等の地域活性化事業への支援

- ・小規模事業者・中小企業のIT化と5G時代に対応したDX(デジタルトランスフォーメーション)の促進支援
- ・「経営支援員支援力向上評価会議」等による経営支援力の向上・強化
- ・支援力向上のための研修会等の充実及び資格取得の推進
- ・産業エネルギーマネジメントシステム(EMS)の普及促進
- ・環境・エネルギー課題に対する企業の取り組み促進に向けた「京商 ECO サロン」の開催
- ・SDGsに対応した環境経営の促進 **新規**
- ・スポーツを通じた従業員の健康増進により業績向上を図る健康経営の検討 **新規**

B2. 企業の成長に向けた橋渡し

- ・新たな知恵ビジネスの成長モデルを発信する「知恵-1 グランプリ」の実施 **新規**
- ・知恵ビジネスの裾野を広げる「知恵産業の森サロン」の開催
- ・オール京都による販路開拓支援「京都知恵産業フェア2021」の開催
- ・新商品開発・首都圏販路開拓支援「あたらしきもの京都」「あたらしきもの KyotoNEXT」等の推進
- ・幅広い商談ニーズに応える「テーマ別商談会(事前マッチング型)」や逆商談会の実施
- ・「京都いちおしポップアップショップ」(仮称)による販路開拓支援 **新規**
- ・海外市場開拓支援のための「逆商談会」の実施
- ・JETRO京都を中核とした「京都海外ビジネスセンター」との連携による海外展開支援の強化
- ・アジアビジネス相談デスクの運営
- ・中小企業等のTPP・EPA活用への支援(企業ニーズに応じた説明会・セミナーの開催等)
- ・特定原産地証明書の発給支援を通じた会員事業所等の国際展開推進
- ・JETRO京都と連携した「京都ブランド海外展開助成金」の実施
- ・ファッション京都推進協議会・JETRO京都と連携した海外販路開拓支援事業の調査・検討
- ・京阪神三商工会議所連携によるスポーツビジネス関連産業振興事業「スポーツハブ KANSAI」の推進
- ・科学技術振興・新産業創出を促進する「新産業創造セミナー」の開催 **新規**
- ・「京都スマートシティエキスポ 2020」の開催支援

C. 創造性にあふれ、世界に開かれたまち

C1. 京都のまちや産業のブランド力向上

- ・伝統産業の魅力を広く発信する「京都の伝統産業 技の祭典」(仮称)の開催 **新規**
- ・伝統的工芸品月間国民会議全国大会(KOUGEI EXPO IN KYOTO)の推進 **新規**
- ・職人の技に触れる伝統産業工房訪問ツアーの実施 **新規**
- ・京都・観光文化検定試験(京都検定)の「初学者向けワンコインセミナー」や「公開テーマ別試験対策講座」の実施による3級受験奨励

- ・京都検定団体受験上位表彰「G-1グランプリ」、1級複数合格者表彰「マイスター制度」、「準1級認定制度」等による受験者拡大
- ・京都市教育委員会、京都府教育委員会との連携による中高生3級受験、親子受験の促進
- ・「KYOTO CMEX2020」の開催など、マンガ、アニメ、ゲーム、eスポーツなどのコンテンツ産業の振興
- ・京都ブランド名産品公正取引協議会による観光土産品認定審査会等の実施
- ・「きもの文化」ユネスコ無形文化遺産登録に向けた関係機関との連携
- ・「きものウィーク」や「きものの日」の普及促進
- ・和装関連団体と連携・連動した「第28回ファッションカンタータ from KYOTO」の開催
- ・「京商 食の6次化推進支援ボード」など農商工連携の推進
- ・文化庁地域文化創生本部と連携した文化×観光、あるいは伝統産業やIT等、異分野・異業種と掛け合わせ新しい観光を考える「観光振興クロスセミナー」の実施
- ・琵琶湖疏水など産業遺産や文化財の活用による新たな観光資源の魅力創造推進
- ・「北陸・関西連携会議」の開催による両地域の連携推進
- ・「京都・花灯路」、「京の七夕」、「祇園白川桜ライトアップ」など夜観光・宿泊観光充実事業の支援・実施
- ・京都を中心に活躍する若手日本画家たちを奨励する「京都 日本画新展」の開催支援
- ・「KYOTO STEAM」や「KYOTO KOUGEI WEEK」などへの参画を通じた文化と京都産業の連携支援
- ・「京都創造者大賞 2020」の実施
- ・京都ブランド推進連絡協議会と連携した新たな京都ブランド発信事業の検討
- ・「京都文化力プロジェクト」の共同実施
- ・京都ブランド推進連絡協議会との連携による「京都ブランドフォーラム」の開催
- ・「京あるき in 東京 2021」の開催支援
- ・京都に本拠を置くプロスポーツチームの支援
- ・全国都道府県対抗女子駅伝競走大会京都府チームの支援

C2. 未来の活力創造に向けた提言・協働

- ・議員を中心に京都の経営者が政策的な議論を行う第1回「京都経済人会議」(仮称)の開催 **新規**
- ・文化庁の京都移転に向けた、オール経済団体の支援の検討 **新規**
- ・小規模・中小企業対策、中堅企業対策等の産業政策をはじめ、緊急経済対策、都市基盤整備など、国、京都府、京都市に対する政策提言活動・要望活動の強化
- ・景気動向・企業経営に関する調査研究(経営経済動向調査、景況調査、商工会議所早期景気観測システムLOBO調査、京都主要経済指標など)
- ・「ワールドマスタースゲームズ 2021 関西」の開催に向けた機運醸成と協力
- ・2025年大阪・関西万博開催に向けた協力
- ・「らくなん進都」はじめ、京都南部地域の都市環境の整備と企業集積の促進
- ・京都駅西部・東部・東南部エリア等の新たな賑わい創出に向けた都市基盤の整備促進
- ・関西文化学術研究都市の研究、文化施設の充実や交通インフラなど基盤整備の促進

- ・高速道路や隣接都市を結ぶ幹線道路などの道路ネットワークの整備促進
- ・北陸新幹線・リニア中央新幹線の整備促進
- ・市民・観光客双方の利便性向上に向けた交通体系の整備促進
- ・地下鉄延伸・自動運転技術など新たな交通ネットワーク整備の調査・研究 新規
- ・快適な歩行空間の整備促進
- ・京都拘置所や京都運輸支局、京都刑務所など国有地活用の推進
- ・京都府商工会議所連合会の機能強化による府内商工会議所との連携強化
- ・京都経済センター入居団体など京都の経済団体との連携強化
- ・京都府商工会議所連合会、関西商工会議所連合会、日本商工会議所、北陸3商工会議所、(公社)関西経済連合会等との広域連携の強化
- ・国、京都府、京都市、その他行政諸官庁との連携強化
- ・(一社)京都知恵産業創造の森との連携によるオール京都の中小企業支援体制の構築
- ・京都の文化、観光などの関係機関との連携強化

D. 会員と共に可能性をひらく京商

D1. 会員サービスの充実

- ・「定例会員講演会」(年4回)の開催など全会員参加型事業の充実
- ・オンラインセミナーの実施、コンテンツの充実
- ・「京商はんなり共済」など、事業所の福利厚生充実のための各種共済制度、賠償責任負担から企業を守る各種保険制度の普及と加入促進による経営力強化
- ・日本産原産地証明申請・発給業務の電子化(オンライン申請・発給)導入 新規
- ・会員事業所永年勤続優良従業員の表彰
- ・会員向け福利厚生事業の充実
- ・貸会議室予約システム導入及び貸出機器・備品等の充実による会員等の利用者サービスの向上
- ・「京ビジネスレビュー」(隔月・年6回)と増刊号発行(7月・1月の年2回)の発行による会員向け情報発信
- ・京商ニュース掲載(京都新聞・年4回)による本所事業の発信
- ・Web サイトリニューアルや SNS の強化などによる本所サービスの発信充実
- ・首都圏、海外への会員企業の情報発信支援の強化
- ・メールマガジンによる情報発信の強化と充実
- ・若手美術・工芸作家育成のための事務所内における作品展示やマッチングの支援
- ・本所事業や制度の積極的な活用を促すパンフレットの作成

D2. 会員参画・組織基盤の強化

- ・全会員の参画機会向上を目指した「会員交流強化プロジェクト」の推進

- ・「新入会員ビジネス交流会」、「地域ビジネス活力交流会」、「支店長会」など、さまざまな切り口・テーマの会員交流事業の推進
- ・永年継続会員の表彰
- ・会員ニーズの掘り起こしと事業PRを目的とした会員訪問運動の展開
- ・未加入の京都市内事業所に対する全所をあげた会員増強運動の実施
- ・新入会員を対象とした会議所活用方法説明会「新入会員オリエンテーション」の実施
- ・ボトムアップ型の会議所運営の中心的役割を果たす部会活動の強化
- ・各部会間の情報の共有化と相互交流の促進
- ・女性会活動などによる女性経営者の資質向上と交流および地域貢献活動への支援
- ・青年部活動などによる青年経営者の研鑽と資質・経営力向上および地域貢献活動への支援
- ・青年部創立30周年事業および京都府商工会議所青年部連合会会員大会(京都大会)の開催支援 新規
- ・職員の働き方改革の推進及びIT等の活用による業務効率化
- ・職員のスキルアップのための研鑽・人材育成
- ・本所財政基盤の見直し及び収益事業の充実・強化
- ・旧京商ビル資産積立金活用検討会議等による資産活用の検討
- ・大規模災害等に備えた本所危機管理・事業継続計画(BCP)対策の推進並びに防災備蓄品の整備

以 上

〔付表〕 2020年度事業計画と部会・委員会との関連表

A. 未来を担う多様な人材が花開くまち	
A1. イノベーションを牽引する人材の創出	<ul style="list-style-type: none"> 京商知恵基金を活用した京都・知恵アントレプレナー支援プログラム(K-CAP)事業の展開 産業人材育成・中小企業活性化・科学技術振興・新産業創造 京阪神の連携によるライフサイエンス関連産業の振興 科学技術振興・新産業創造
A2. 多様な人材確保・育成支援 産業人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ダイバーシティ経営促進のための「ダイバーシティマネジメントセミナー」等の開催 ダイバーシティ推進 小学生への環境学習事業の実施 環境・エネルギー
B. 知恵を展開し、活力ある未来を拓くまち	
B1. 未来志向の経営をサポート 中小企業活性化	<ul style="list-style-type: none"> 小規模事業者・中小企業のIT化と5G時代に対応したDX(デジタルトランスフォーメーション)促進支援 科学技術振興・新産業創造 環境・エネルギー課題に対する企業の取り組み促進に向けた「京商ECOサロン」の開催 環境・エネルギー SDGsに対応した環境経営の促進 環境・エネルギー
B2. 企業の成長に向けた橋渡し	<ul style="list-style-type: none"> 新商品開発・首都圏販路開拓支援事業「あたらしきもの京都」等の推進 ファッション産業振興 JETRO京都と連携した「京都ブランド海外展開助成金」の実施 京都ブランド推進 ファッション京都推進協議会・JETRO京都と連携した海外販路開拓支援事業の調査・検討 ファッション産業振興 京阪神三商工会議所連携によるスポーツビジネス関連産業振興事業「スポーツハブKANSAI」の推進 スポーツ振興 科学技術振興・新産業創出を促進する「新産業創造セミナー」の開催 科学技術振興・新産業創造
C. 創造性にあふれ、世界に開かれたまち	
C1. 京都のまちや産業のブランド力向上	<ul style="list-style-type: none"> 伝統産業の魅力を広く発信する「京都の伝統産業 技の祭典」(仮称)の開催 工芸産業振興 職人の技に触れる伝統産業工房訪問ツアーの実施 工芸産業振興 「きもの文化」ユネスコ無形文化遺産登録に向けた関係機関との連携 繊維・染織 「きものウィーク」や「きもの日」の普及促進 繊維・染織 和装関連団体と連携・連動した「第28回ファッションカンタータ from KYOTO」の開催 ファッション産業振興 琵琶湖疏水など産業遺産や文化財の活用による新たな観光資源の魅力創造推進 観光産業 文化、伝統産業、IT等、異分野と掛け合わせ新しい観光を考える「観光振興クロスセミナー」の開催 観光産業 「花灯路」「京の七夕」「祇園白川さくらライトアップ」など夜観光充実事業の支援・実施 観光産業 「京都創造者大賞2020」の実施 京都ブランド推進 京都ブランド推進連絡協議会と連携し、新たな京都ブランド発信事業の検討 京都ブランド推進 京都ブランド推進連絡協議会との連携による「京都ブランドフォーラム」の開催 京都ブランド推進 「京あるき in 東京 2021」の開催支援 京都ブランド推進 京都に本拠を置くプロスポーツチームの支援 スポーツ振興 全国都道府県対抗女子駅伝競走大会京都府チームの支援 スポーツ振興 「京商 食の6次化推進支援ボード」など農商工連携の推進 食品・名産
C2. 未来の活力創造に向けた提言・協働	<ul style="list-style-type: none"> 議員を中心に京都の経営者が政策的な議論を行う第1回「京都経済人会議」(仮称)の開催 産業政策 国・京都府・市への要望など、意見・提言活動の強化 産業政策・中小企業活性化・各委員会共通 文化庁の京都移転にむけた、オール経済団体の支援の検討 文化振興 「ワールドマスターズゲームズ2021関西」の機運醸成と協力 スポーツ振興 「らくなん進都」はじめ、京都南部地域の都市環境の整備と企業集積の促進 都市整備 京都駅西部・東部・東南部エリア等の新たな賑わい創出に向けた都市基盤の整備促進 都市整備 関西文化学術研究都市の研究、文化施設の充実や交通インフラなど基盤整備の促進 都市整備 北陸新幹線・リニア中央新幹線の整備促進 都市整備 高速道路や隣接都市を結ぶ幹線道路などの道路ネットワークの整備促進 都市整備
D. 会員企業と共に可能性をひらく京商	
D1. 会員サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> 本所事業や制度の積極的な活用を促すパンフレットの作成 選挙制度・会員強化
D2. 会員参画・組織基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> 全会員の参画機会向上を目指す「会員交流強化プロジェクト」の推進 選挙制度・会員強化・各部会共通 「新入会員ビジネス交流会」など、多様なジャンルの会員交流事業の推進 選挙制度・会員強化・各部会共通 全所をあげた会員増強運動の実施 選挙制度・会員強化・各部会共通 ボトムアップ型の会議所運営の中心的役割を果たす部会活動の強化 各部会共通 各部会間の情報の共有化と相互交流の促進 各部会共通